

JICAと世銀が連携強化へ 01



1日目の全体セッションの様子(写真提供:世界銀行)

7月26日から28日までの3日間、ワシントンの世界銀行本部において、JICAと世界銀行グループの間で第2回目のハイレベル対話が開催されました。JICAからは田中明彦理事長をはじめとする約20人の役員が、世界銀行グループからはジム・ヨン・キム総裁をはじめ、さまざまな地域・分野を担当する副総裁以下の役員が参加しました。

1日目は、昨年7月の第1回ハイレベル対話からの進捗を確認するとともに、東南アジアやアフリカなどへの支援における今後の連携の方向性を議論。2日目にはより詳細な協議を経て、フィリピンの防災分野やネパールの震災後の住宅復興事業などを協議して実施することに合意しました。さらに、2016年に開催予定の第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)を見据え、エネルギーや地域交通、保健などの分野においても連携を強化することを確認しました。

田中理事長は、3日目に実施された世界銀行理事会メンバー向けのセミナーで、JICAが取り組んできた災害後の復旧から復興までのシームレスな(切れ目のない)支援について講演。その中で、フィリピンやネパールでのJICAの取り組みを取り上げ、今年3月に仙台で開催された第3回国連防災世界会議で、その重要性が広く認識された「より良い復興(Build Back Better)」の考えに基づき実施してきたことを強調しました。

また、田中理事長は開発途上国の災害復興においては、時間・手段・資金の3つの側面において支援のギャップが存在していることを問題提起し、国際社会が協調して支援にあたることで問題解決を図ることの可能性について、各国の理事と議論を交わしました。

JICAと世界銀行グループの両機関は、今後もさまざまなレベルで定期的に対話を行い、連携を強化していくことを確認しました。

ノルウェーで「教育の質」の重要性を発信 02



パネリストとして発言する田中理事長

田中明彦JICA理事長は7月7日、ノルウェーのオスロを訪問し、「開発のための教育に関するオスロサミット」に出席しました。

教育への投資の必要性を訴えることを目的として開催された本会合には、潘基文国連事務総長をはじめとする国連機関の要人や、約40カ国の首相・閣僚のほか、2014年ノーベル平和賞受賞者のマララ・ユスフザイ氏も参加。2030年に向けた国際教育開発の重点課題となっている、「教育への投資」「女子教育」「質と学習」「緊急時における教育」の4点についてパネルディスカッションが行われました。

田中理事長は、出席した「質と学習」に関するパネルで、JICAのこれまでの協力の経験を踏まえ、「教員同士の学びあい」や「学校と地域社会の間の信頼関係の構築」などが教育の質の向上に重要であると強調。さらに、JICAが世界各国で展開してきたこれらの支援が拡大しつつあること、そして今後も協力を強化する旨を述べました。

田中理事長がキューバとセントルシアを訪問 03



セントルシアJICAボランティア派遣20周年記念式典で主催者あいさつをする田中理事長

田中明彦JICA理事長は、7月8日から15日にかけてキューバを訪問し、ムリージョ閣僚評議会副議長兼経済企画大臣をはじめとする政府要人と面談を行ったほか、ハバナ大学において「JICAによる対キューバ協力—人的資源開発に焦点を当てて—」をテーマに講演を行いました。

講演では、「食料増産」「環境保全」「保健医療分野での官民連携」の3つがJICAの対キューバ支援の重点分野であると述べた上で、人材育成に一層注力していく意向を表明。具体的には、今後5年間で毎年60人、計300人のキューバ政府関係者を日本に招き、開発課題の解決に向けて協力する姿勢を示しました。

また、田中理事長はセントルシアも訪問し、「ボランティア派遣20周年式典」に参加しました。式典では、アンソニー首相が、教育や社会福祉など多岐に渡るボランティアの貢献を高く評価するとともに、協力の継続に強い期待を示しました。